

平成二十七年年度の総合水産試験場の取り組みについて

長崎県総合水産試験場 企画開発推進室

はじめに

皆様方には、水産業の試験研究の推進に関し、日頃からご支援・ご協力を賜わり、厚くお礼申し上げます。総合水産試験場は、平成九年の供用開始以来、今年で十九年目を迎えました。

当水試においては、本県水産業振興の指針である「長崎県水産業振興基本計画」に基づき実施される各種施策の実現に必要な試験研究や技術開発に、計画的に取り組んでいます。

また、「開かれた総合水試」として、加工機器などの各種設備を広く一般に開放し、水産業界や県民の皆様の要望を踏まえた試験研究や技術指導に努めているところです。

それでは、本年度の主な取り組みについてお知らせします。

主な事業の紹介

一 沿岸漁業高度化支援事業 (単位 千円) 五、七〇三

漁業所得の向上を目指した効率的かつ省エネ型の漁業や水産資源の持続的利用を促進するため、地域重要資源の生物学的知見に加え、移動・回遊などの生態把握を行うことで、資源評価および漁海況予報の精度を向上させ、提供情報の充実を図ります。

また、一定の知見が蓄積された重要魚種において、漁場予測等の技術を開発します。得られた結果や人工衛星データ等の情報はIoT機器等を活用して発信し、科学的視点を持った漁業者の育成と効率的な操業を支援します。

二 ク工資源管理技術開発事業 一、四二〇

ク工資源の持続的利用を図るため、生態学的知見の解明や資源評価に加え、効果的な放流手法の開発を行うことで、種苗放流と資源管理を組み合わせた資源管理手法の構築を目指します。

三 遺伝子標識技術による閉鎖性海域資源増殖推進事業(新規) 五、五三六

遺伝標識(DNA)による親子判別技術を用い、標識が困難なナマコについての放流技術開発、放流による資源回復を進めているホシガレイの再生産効果の把握を行い、効率的な増殖手法の検討を行います。

四 良質な種苗の生産技術開発研究事業 九、八八三

種苗生産に関する基礎技術開発から技術移転までの期間を短縮し、養殖用、放流用それぞれに最も適した種苗(クエ、クロマグロ、カワハギ等)の生産技術を開発します。

五 養殖魚類の育種技術開発研究事業 一、二二五

トラフグ、ホシガレイ等について、既存の養殖魚より上質で、価格競争において優位に立てる品種を作出するため、最新の育種技術を取り入れた種苗生産技術を開発します。

六 養殖目類の優良・高品質化を目指した基礎技術の開発

三、三三二

貝類養殖技術の高度化や収益率向上のため、マガキ人工種苗の品種改良に有効な親貝の生理指標等の確立と、費用対効果を向上させる効率的な種苗生産技術を開発します。また、「照り」の良い真珠を生産するアコヤガイの特徴を解明するとともに、「照り」を良くするための品種改良や養殖手法の開発に取り組みます。

七 環境変化に対応した藻類増養殖基盤技術開発

六、〇八三

藻類増養殖においては、環境変化に対応すべく、ヒジキの群落管理や種苗生産技術の開発に加え、ノリ等の安定生産のための漁場環境などの調査・情報提供や技術改良を行います。また、磯焼け対策として「春藻場」の効率的な造成を図るため、魚の食害の分散・低減効果が期待できる小型海藻の増殖技術を開発します。

八 水産物供給体制づくりのための技術育成事業

三、四一四

県内水産加工業者、水産物流通業者等に対し、開放実験室の活用・現地指導・研修会・広報誌の発行などによる商品開発・改良の支援や、水産物の品質・鮮度向上のための技術開発・指導を引き続き行います。

九 主要魚種の価値を高める加工技術の開発

三、七五一

水産業を取りまく環境が厳しさを増す中、本

県産主要魚種の付加価値向上を図るため、生食用商材の冷凍加工技術および塩干品の品質向上のための技術開発を行います。

十 漁場環境保全総合対策事業（新規）

九、八二五

有害・有毒プランクトンによる養殖生物へのい死・貝類毒化に伴う食中毒の防止とアサリ等貝類の餌料（珪藻類等）環境の改善を目的として、現場海況調査、主要原因プランクトンの動態予測方法や有効な防除方法の検討を行い、人的被害および漁業被害発生防止に努めるとともに、アサリ等の安定生産をめざします。

十一 戦略的養殖業を推進する技術の開発

三、四七八

収益性の高い養殖業を実現するため、市場価値が高い新たな魚種や、消費者の嗜好に対応した養殖魚の生産に向けて技術開発を行います。

十二 魚病対策技術開発事業

六、三五〇

養殖業の収益性を低下させる要因の一つである魚病を克服するため、疾病の予防・治療に対する技術開発および病気に強い家系の探索を行います。

この他、「有明海漁業振興技術開発事業」などについても水産部内で連携のうえ、業務を遂行しています。

西海区水産研究所及び長崎大学との連携

当水試に隣接する「国立研究開発法人水産総合研究センター西海区水産研究所」および「長崎大学環東シナ海環境資源研究センター」との

連携強化を前提に、定期意見交換会・各種会議の開催や「ながさき水産科学フェア」の共同開催などを引き続き実施します。

情報の発信

試験研究の取組内容について、漁業者等関係する方々の理解と関心を深めていただくため、各地域で研究成果の紹介や意見交換を行う「移動水産試験場（出前水試）」を開催しています。また、ホームページや携帯サイト等を活用した情報提供を行っています。

一 漁海況情報の充実

漁業活動を支援するため、毎週金曜日に発行する「漁海況週報」や随時発行する「漁海況通信」で様々な情報を提供しています。なお、「漁海況通信」は、情報が漁業者の皆様の目に触れる機会を増やすため、市町、漁協に掲示可能な紙ベースで配付しています。また、ホームページではバックナンバーを閲覧できるようにしています。



「漁海況通信」(A3版)

二 ホームページ

施設紹介、研究計画、研究報告、情報サービス、漁海況情報、ニュース、試験研究情報等を主な内容として提供しています。また、図集、長崎県の漁具・漁法」や魚の捌き方なども掲載し

ています。

三 携帯サイト

漁海況通信の概要版、赤潮情報、水温情報などを掲載しています。携帯電話のバーコードリーダーで下のQRコードを読み込むとサイトへジャンプします。

おわりに

「開かれた総合水試」として、水産業に直結した役立つ試験研究・技術開発を推進してまいりますので、皆様のご意見、ご要望があらましたら、当水試企画開発推進室（〇九五 八五〇 六二九四）か、最寄りの水産業普及指導センターまでご連絡いただきますようお願いいたします。

（企画開発推進室 岡山紘介）

長崎県総合水産試験場

電話番号

095-850-6294

ホームページURL

<http://www.marinelabo.nagasaki.nagasaki.jp/>

携帯サイトURL

<http://www.marinelabo.nagasaki.nagasaki.jp/mobile/>

右のQRコードを携帯電話のバーコードリーダー機能で撮影すると携帯サイトへジャンプします。

